第18章

子供部屋

や現実 離 れ したリアリテ 1 ・でバ ーチ ヤ ル な 物 語  $\mathcal{O}$ ソフ 1 が またたく間 に普及 しま L た

ビやゲーム機やパソコンなどのハードの普及。そしてそのハード

を使った残酷なシーン

「テレ

確 カン に L 0 カコ ŋ L た ハ ] ド が な V ここまでソフ トが 普及することは な カュ 0 た カコ ŧ れ

ま

せん ね

し か し、 ハ F - の性能 の向 上とそれ に便乗するソフ 1 . О 開 発 が すべてでは あ ŋ ŧ せ W

うの が 刑部さん の分析結果ですね」

この

ふた

つの

相

乗

的

な影響で若者が

人命

を軽

んじて、

殺

人事件が多発するようになったとい

刑部 が 強く首を横 É 振 る。

「もちろん、 殺人事 |件多発の大きな原因 のひとつに違いありませ

「ここからが核心 部分ですね

る 「そうです。 Įλ はエゲツ 表現 な V 映像でも、 の自由を私は百パーセント支持しませんが、 見方によっては重 みが あります。 どんなビックリするような、 たとえば家族で一緒に見るので あ

あ いれば、 ょ V 教 材になる場合もあります」

Ł 貫く 広島 画 に 原 面 に変わ 爆 を落 る。 とすアメリカ カラ ĺ 画 空軍 面 カン 5  $\mathcal{O}$ 爆 七 撃機 ) ク 口 の映像が 画 面に変わると無残な死体や泣き叫ぶ子供 現れる。 すぐさま巨大なキノコ雲が 天を

とても 正視 できな V 映 像 が 続

これ

. は現実に起きた事件の映像です」

映

像

が

消えて、

画

面

に

は

元警部

0

刑部と逆田

が

並

並んで立

つ

画

面

に戻る。

きだしなが 次にゲームソフトで執拗に繰り返される暴力シーンが続いたあと、 ら倒 れ た男 0 死 体 が ア ツ プさ れ 力尽きて全身から血を噴

意外です。 映 像 とし ては 広 島 0 原 爆  $\mathcal{O}$ 方 が むごい。 ゲー ム の映像は 軽く見えま

そ 「なぜなら、 れ ゲー  $\Delta$ 広  $\mathcal{O}$ 島 映 像 0 は 映 家族 像 は で議 事実です。 論す Ź そし に は 次元 て歴史です。 が低すぎます。 ゲ 1 A 家 0 族 映 像 0 とは 数 だ け、 重 4 様 が 達 Þ な意 うの 見や感

格 好 0) 教材 になります。 そして平和 0 尊さを教えます」

想が

生まれ

ることは

な

Ņ

でしょう。

広

島

 $\mathcal{O}$ 

映像

はむごすぎますが、

前

向きな意見が

交わされ

Ł 「お 理解できます。 っしゃる意味 教えていただきたいのは次元の高低、 は十分理解しました。 このふたつの映像 つまり『次元の差』というものはい 0 『次元』の高さ、 低さという解説 0

たいどういうことなんですか」 鋭 い質問ですね

予め答えを用意されているのでは? 余裕がありますね」

打ち合わ 「さすが、 せや、 逆田さんは 本番 で使う脚 プロ ですね。 本 . (D) 制 今まで何 作 の手伝い 度 とか、 カ 他 0 放送 放送に至るまで様 局  $\mathcal{O}$ 番 組 に出演 々な準備を強要されま しま したが、 事前 0

ーその ほ か に 何 が あるのですか。 あつ! そうか。 横槍が入るのですね」

た。

それ

だけ

で

は

あ

ŋ

ŧ

せ

W

お招きして 横槍一本だけなら我慢もします。 1 る方の自由な発言や意見を規制 縦槍、 斜め槍、 するのですか。 何でもありです」 もしそうなら無礼にも程が

あ

n

私 は 放 災送に 関 しては 素人ですが、 自分がしてきた仕事には自信があります。 キ ャリア官僚と

ますね

違

って発言に責任を持ちます」

放送局 0 独断で、これは言うな。これ は控えめに。こういうことですね

「そうです。 しかし、 この放送局はそんな規制をしない」

の代わり、スマートな放送はできません。 「当たり前です。 事実を伝えるだけで、番組を見た人が判断すべき材料に脚色は 映像や画像はギクシャクするし字幕は 誤字脱字が しません。 多 そ

1 など見るに堪えないことも多々あります。それにスタジオの設備は最低です。なぜなら、 芝

居をする必要がないので、 刑部 が大きく頷く。 華美な設備が不要だからです」

「だか , 6 私 の方から出演を申し込みました」

ありがとうございます。 ところで話を元に戻します。ぶっつけ本番なのでこんな脱線は日常

茶飯事です。 誠に 申 し訳ありません」

"次元の差』 を説明してくれ、 ということでしたね」

広島に落とされた原爆の悲惨な映像と、ゲームの残酷な映像との乖離、

それを

『次元

「はい。

明 を !

 $\mathcal{O}$ 

差

という言葉で表現されました。

その意味もお尋ねしました。

更にもう一歩踏みこんだ説

「一言で言えば、 悲惨な、 あるいは正視できない映像や画像を共有し、 議論 して、 何とか :結 論

模索する。 もちろん、 そういう場 自室に閉じこもって見つめるだけで、 絶対 的 の提供 な結 論 が では できる映 な いにしろ、 像 では なく、 自分の生きざまとしてひとつの回答を得 しかもそれが習慣になって、 アニメの残酷 な映 (像を誰) その と 口 まま大人へ 論 す る た け

と成長してしまう。この過程が問題なのです」

「恐ろしいことですね」

「この成長は、個室という密室性が生み出した歪な成長なのです」

「もう少しかみ砕いた説明をお願いできますか」

「申し訳ありませんでした。 続けましょう」 興奮気味だったことをお詫びします」

我が国では元々プライバシーなどという概念はありませんでした」

「ここで『プライバシー』という言葉のおさらいをしましょう」

「そうですね」

「その間に気持ちを落ち着かせてください」

あ

りがとうございます」

- 197 -

ここで逆田

が一旦言葉を切ってから頭を下げて続ける。

される。逆田がその統計を解説する。

刑

部

は音をたててペットボトルの水を飲む。

画

面には第二次世界大戦後のある統計が映しだ

実 晴 た りました。どうも日本人は耳障りのいい言葉を聞くと中身を確かめもせずに突っ走るようです」 な公平だという考え方 「家父主 です。 西洋 5 :文明 消 ŧ によっ 化不良のまま、 0 が 父親 あ て破 る。 が すべ それ 壊されたのです。 に変わ てを取 自由だとか、 はさておき、 りま り仕切るという制度か L た。 平等だとかという表 それ とにかく緊急輸入的 もちろん、 ま での 悪い 価 5 値 慣習もあ 観 平等主義、 が な価 面的 戦 勝 な概念だけが 値 0 国 たし、 観を押し であるア 平たく言うと家族 逆に つ メ け IJ 日本 欧 Ś 力 米 中 を れ 0) を た 慣 心とし 習 駆  $\mathcal{O}$ は みん け は 巡 事 素

です。 職 さ してい 「ごめんなさい。 場に V 制 就職できるようになって、そのため 度のもと、 た国民にとっては西 うわ は 同じ けで受験戦争が コネや賄賂ではなく、平等主義のもとで実力さえあれば、公平にそれなりの 少し言いすぎたかもしれません。訂正します。 か ŧ 知 れ 欧の ませんが、 . 勃 発 価 値 観は したのです。 V V 聞き心地がよかったということです。さて一方では には 大学を卒業というのではなく、 いい大学に入学……皆さん、 それは武器を使う戦争とは違って平和 終戦前までの統 V 誤解 V 大学 制 L に入学なの ないでくだ 社会に辟易 にな戦争 新

よどみない逆田

の言葉に緊張していた刑部の顔が緩むと一息ついてから引き継ぐ。

第18章 子供部屋

あ

ŋ

まし

L

カコ

し、

障子や襖に

. 仕切

6

れ

た空間

で、

密

室 一では

なか

っった。

つまり、

鍵

0 掛

け

まり、

勉

強

部

屋

個

室

です。

戦

後二十年ほど経

つと、

先を見越

L

た親

は

そろって子供

0

ために

かし、

この

戦争に勝つためには、

我が

子に作戦司

令室を提供しなければならなかっ

た。

個

[室を

提

供

します」

マ ħ まで 子 供 部 屋というのがあ 0 たそうです ね

ようが な 1 空間 でし た。 ところで逆田さん は お酒をたしなまれ ます 'n

同 僚 と居 酒 屋 行く程度です」

0 安物 座 敷 の屏 がある少し 風 でもあると、 コマ セな居酒屋でこん 何 か 個室で飲んでい な経 験 は るような気分になる」 あ めりませ  $\lambda$ か。 座ると隣が見えなくなる程度

逆 田 は 刑 部 のいう情景を想像しながら耳 を傾 ける。

「そのような空間 は 隣 の空間と連 携 して存在します。 ところが鍵が掛かる個室は密室です。 高

逆 田 が 刑 部 0 言葉を遮る。

政

治家や

高

級官僚や大会社

一の社

長が好

んで使う部屋

のことですね」

級料亭の

個室

は

密

談

の場

所とな

り ……」

刑 部 が 少 ĺ 不満そうな表情を浮 カン べ なが ら言葉を続ける。

家 庭 で  $\mathcal{O}$ 個 室 は 非 行 0 温 床 に な ŋ ŧ

逆 田  $\mathcal{O}$ 目 が 詫びるような視線 に変わ

る。

す

ウ

イ

ル

ス

を撒き散らして感染させます」

親 国 民 0 監 (T) 目が 視 を 飛 届かない料亭の個室と同じく親の目が び )越え て外部 0 世 界と直接 イン ター 届 ネ ツ かない密室ということですか」 1 で 繋が ります。 個 室 に 1 る

# 間

知

5

ず は 子 供 何 すで 供 に襲 Ó t 子 を な に 助 供 い い 無防 何 けることができな に カコ + カコ 様 種 ŋ 備 Þ É な 類 で 丸 もの す。 誘 裸 惑 ウイ 障 な状 が 子 舞 ル 態 1 0) 1 込み ス 不思議 部 で、 屋 に侵されています。 なら親 親 ま な部 す。 が 造 もは 屋 は 0 た防 子供 が P 家 を助 衛ラインをあざ笑うか 0) 中 その空間 に そういう子供が学校に、 (けることができます ある のです。 は 個 室 で その は 0 あ 部屋 りま が ように 卒業すると社会に カュ 同 せ ん。 5 じ 犯 出 罪 家 てきた子 バ 0 0 中 ワ IJ に ナ T が 供 る 子 ŧ

表情 が 険しくなる刑部に驚い 要はプライバシーという名の下で歪っ て逆田が 言葉を挟む。

ということですね 「よく分かりました。 な環境が広がって社会全体を蝕む

「そう! 刑 部 は 笑い でも先に結論をまとめて貰ったんじゃ、 ながら逆田に脱帽する。 逆 田 は恐縮して頭を深々と下げる。 私の立 場が な V

大変、

失礼

しま

L

た

 $\mathcal{O}$ 5 空間 西洋社会でのプライバ では で魔され あ りません」 な 1 精 神 的 な空間 シーというのは、 を意味します。 社会に役立つ方法を自分なりに熟考するために 密室で自分に都合のい いことだけを考えるため 誰

カン

進を繰り返す」

0 1 「そう、 た 0 悟りを開くための具体的な空間として、 に め 0 人はそこで思索にふけって、 悟りです。 悟 りなのです。 悟 りというのは自分自身 日本にはそういう空間 真実を極めようとします。 個室というものがあるということなんですね」 0 ためのようで実は違う。 が あ ります。 『茶室』です。 ところが受験 それ

完全な

個

室

では

な

は

最終

的

に

は

他

人

戦

争

に

備え

るべ

<

子供に

.与えられた部屋は秘密基地となって、

司令官である親を無視して怪しげな世

界に

· 進 軍

ます」

「そして自由をはき違える若い兵士が味方の老兵の命令を聞かないばかりか、 理解できない行

「『何をしようと私たちの勝手でしょ』『自己責任でいいじゃないですか』『何か起こったとき 打ち合わせもしていないのに、 刑部と逆田の呼吸はピタリと合う。

は思いっきり笑ってください』、このような言葉が定型化しました」

1 「この辺で一息入れませんか。おーい、スタジオの空気を入れ換えてくれ。それにコー 「一人で生きてはいけないのに、それまで様々な人の世話があって何とか生きてきたのに、 部屋でたどり着いた考え方は、絵にたとえれば独りよがりで勝手な自 画像のようなものです」 狭

\*

ベ るでしょうが、そういうレベルではなくて、 個 室を与えられた結果、 集団生活ができなくなりました。 もっと大事なことがあります」 集団生活というと合宿を思い浮か

就 職 したときの 初任者研修でよく行われ る社員研 修 は仲間意識を高めるための合宿ではない

のですか

刑部

がまだコーヒーをすすっている逆田に尋ねる。

残念ながら、 その合宿は個室生活に慣れ て集団生活を知らない若者に、 集団というも Ō を教

えるために行 う訓 練 です」

「でも学校で集団 生活 を体験して V . る の では?」

をすると全員が一等賞です。 団内で競争を促す世界です。 い いえ、今の学校は 集団生活 競争させないのです。一方家庭ではどうでしょうか」 競争がない集団生活は余り意味がない。 Iの場 では あ りません。 集団生活というの たとえば運動会で徒競 は 和を保 つと同 時 に 走 集

両 両親が共働きでひとりっ子の家庭を想像してください。そしてその子供には個室があります。 親が休みの日で家に居ても子供は自分の部屋でゲームをします」

「学校が集団生活の場でないとすれば家庭は当然集団生活の場ではありません」

「そん なのは家庭では ありませんね。 刑部さん」

逆  $\blacksquare$ が 刑 部を促

周 りを見てください。 ひとりっ子の家族が多いでしょ」

確 カ に

「子供が二人以上いれば、 仮に両親が共働きでも、 兄弟がいるので最低単位の社会を構成しま

け入れ ず うが す。 じように S S この環境が大事なのです。 この複 ・ます。 集団とい をくっつけ 数と 集 寸 う概念を理解します。 とい いう概念 て 明瞭 うのは少し大げさか に は · 区 非常に重要です。 下の子は生まれるとすぐ集団という組織を所与の事 別 しま す。 つまり最 ŧ さて遅まきながら上 知 英語 れ 小の ませ にたとえるなら名詞 社会構  $\lambda$  $\mathcal{O}$ で複数と表現 成 一の子 に 組 も 環 み入れられたことに 境 した方 た 0 る 変 単 が 化 語

V)

1

 $\mathcal{O}$ 

で

ょ

実として受

を

察

知

l て

同

なり

0

末

尾

に

は

必

逆 田 が 刑 部 の言葉を引き継ぐ。 す

性、 を持つでしょうね」 感受 あ 催 る (T) V 高 は 異性間で 1 時 期、 の様 幼少のころから十七、 々な赤裸 々な関係は、 八になるまでの十 そういう環境にない子と比べて、 数 年間に兄、 姉、 弟、 豊か 妹 た な情感 との 同

位 「大昔、子供 の集団というよりも、 が十人もいる家庭はざらでした。 小さな社会に匹敵するほどの集団だったわけです」 それに祖父母も同居 していれば、 家族は最小単

「そのとお りです・

「そんな家庭で育った子はたくましいでしょうね

刑 部 が 逆 田 0 肩 を強 く叩く。

痛

す ĺ١ ませ ん。 つい 興奮して力が……」

子供部屋 …それ 態 せ 子を産み、 に ん。 1 備 きなり んぞれ えて 目 0 育て、 前

医

療

水

準

が

低

Ź

衛生

状態

ŧ

悪

ゕ

0

た

. の

で子供

0

)死亡率

が

非常

に

高

カコ

0

た

よく理解できました。でも、

昔は戦争に備えて人口

を増やすという国策が

あ ŋ

ました。

一方

何

が

11

1

 $\mathcal{O}$ 

カコ

悪

11

 $\mathcal{O}$ 

カコ

?

子をたくさん造

って、

集団

生活

を当た

ŋ

前

0

ように教え

1

って

V

る

0

でもなく、

食糧

事

情

B

温

暖

化

を防

ぐには

少子

化

が

1

1 とい

0

て

1

る

0

で

あ

ŋ ま

ラ

1

-フス

タイ

ル

を再構築する必

要が

あ

ります」

0

状

況、

なぜこのように

な

0

た

0

かとい

う 原

大

 $\mathcal{O}$ 

解

明、

そして今後起

こりうる

が 画 子孫を残すために苦闘する姿の 面 に 虎が 映 しだされ る。 そし てコ 眏 ウノ 像 がが 続 1 ・リが Ś. わ ず 海 か数分に編集された映像 亀 が、 マ グ 口 が、 コ オ 口 だが ギ が

\*

独り立ちする様子が感動的に迫ってくる。

この 時 間を利用して逆田と刑部が一息入れたのか、 表情が柔らかくなってい

そういうことですね」 当た り前だと思っていることを、 見つめ直すと意外とおかしなことをしている場合が多い。

「そうです」

刑 部 0 返 事 も先ほどまでと違って力強 \ \ \

人歩きしたり、 未 成 年 者 0 殺 人 事件 部 の事件に報道が集中したりします。 カ 5 惠 わ め 方 向 に 議 論 が 広 がが りま した。 そして重複して量が増えるだけ 統 計が į, V 加 減 で あ った の情報

夜

かか

?

変だ」

改 めて逆 田 . と 刑 部 が 並 んで画 面 に登場する。 その逆 田 に ツド セ ットを装着 したまま 0) ス タ

に

翻

弄されて本質を忘れて表面的な解説に終始する専門家が幅をきかせます。

私もそのひとり

カ

t

知

れ

ま

せ

ん

ツフが 近づく。

てい まし た が 戦 闘 状態に 突入しまし た。 繰 ŋ 返 します……」

緊急

ニュ

]

ス

をお伝えします。

太平洋

0

イー

ス

ター

島

付近で国連軍とグレーデ

/ ツドが

対

峙

先に視線を外して画 テ 0) 前 で 田 中と大家 面右上の年月日を見た は緊急ニュ ] ス の意 田中が驚く。 味が呑みこめないまま、 顔を見合わす。

「大家さん!」 直 一感的 に田中が言いたいことを悟った大家は田中の部屋から外へ出る。

りて地 夜 の繁華街のような目映いばかりの光のシャワーを浴びながら、アパ 面にたどり着く。改めて周りを見上げると首が痛くなるほどの多数の高層 ートの錆びた階段を下 マンシ ョンが

真 煌 マと輝 っ黒な雲に覆わ くマ シ 彐 れた空に向 ン の窓からの明 か ってそびえ建っている。二階建ての建物はこの かりで、 曇っているのにもか かわらず晴天のように足元が アパ ートだけだ。

明る 「大家さん」

- 205

僕 0 部 屋 は 竜宮城だ 0 たんだ」

先ほどとは違って田中の声は小さくて低い。

乙姫 は 1 な か 0 たぞ」

乙姫 も鯛 Þ ヒラメも V ない、 安物 の竜宮城だったんだ」

大家はその言葉に怒るどころか小さく頷く。 そして田中の顔をしげしげと見て尋 ね

歳をとってい るか?」

「えっ?」

田中さんは変わってい ない。 わしは?」

あ 0 ! 浦 島太郎のことですね」

わしは?」

「待てよ」

「変わりはないですよ。元々年寄りじゃないですか」

所に近づくと大家の 大家がある方向に走り出す。 ヒザ がガクッと落ちて両手を地 田中がその跡を追うが、大家の脚は意外と速い。 面につい て涙声を出す。 やがてある場

わ 0 家が な 

は後ずさりしてアパートに戻る。 田 が 前 方を見つめる。 そこにはスカイツリーに匹敵するマンションが建っていた。 ふたり